

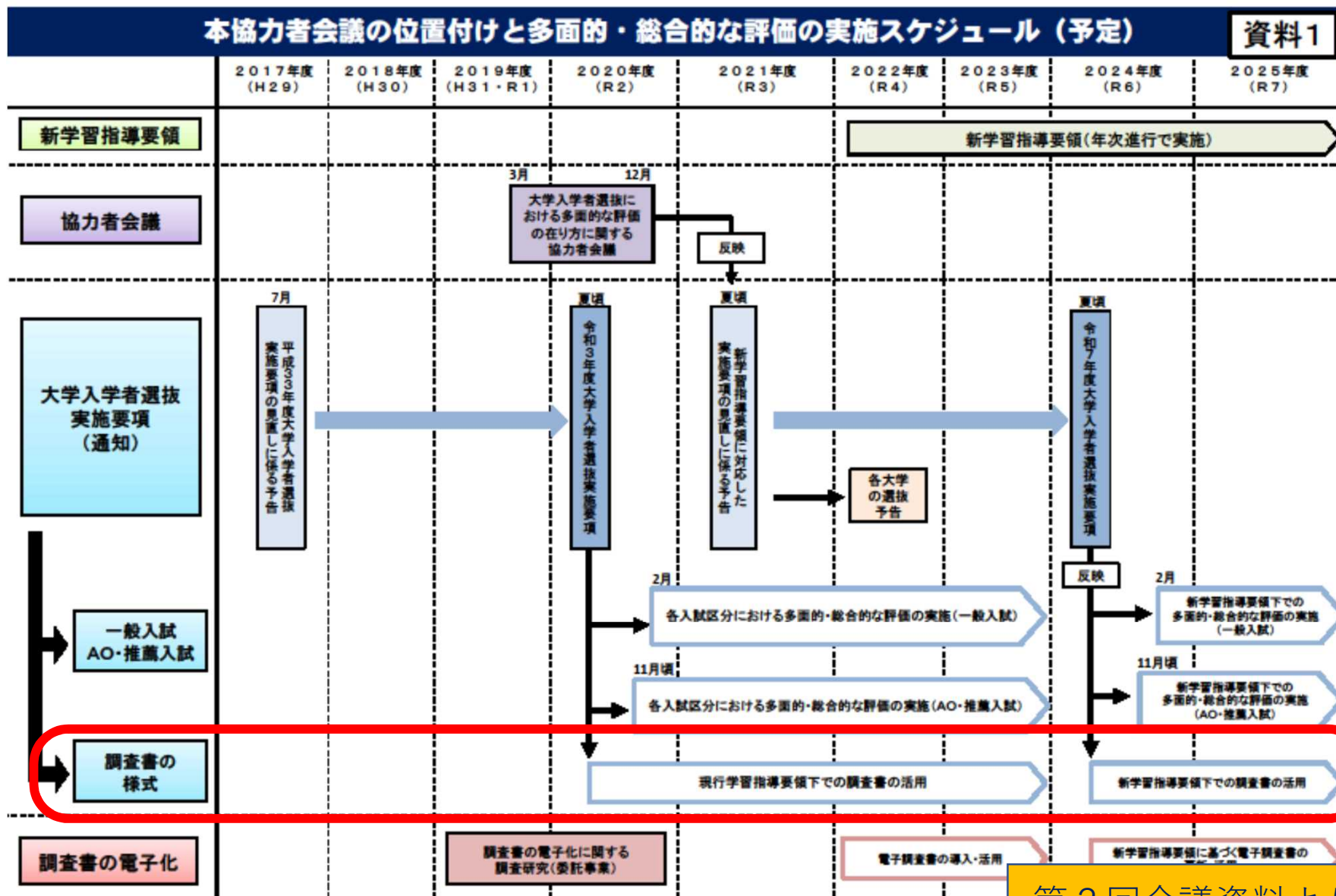
- 調査書作成の現状や課題
- 高校の視点からみた主体性等評価の課題

---

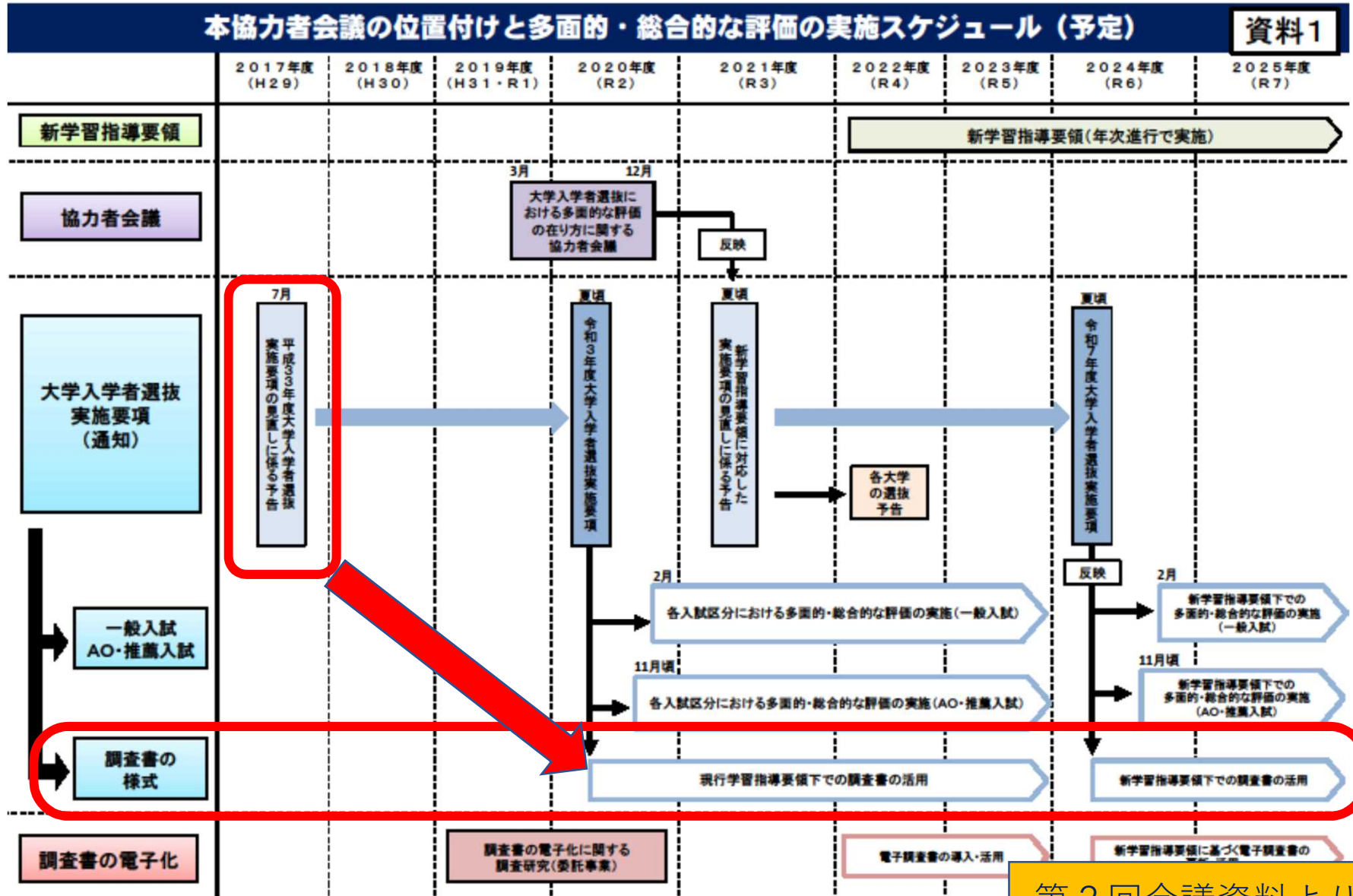
大学入学者選抜における多面的評価の在り方に関する協力者会議

令和2(2020)年5月20日 / 柴原宏一

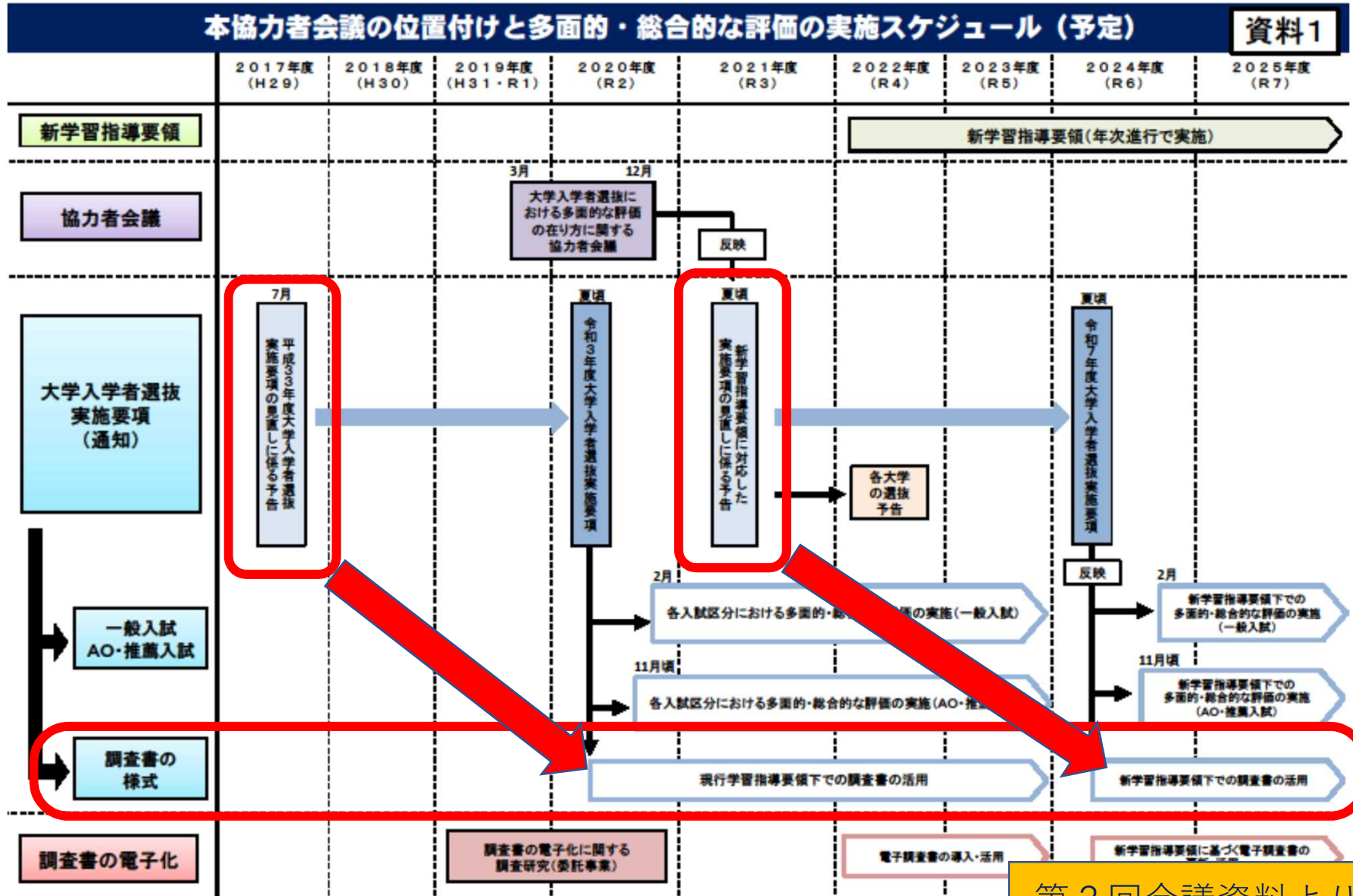
# 調査書作成の現状と課題



第2回会議資料より

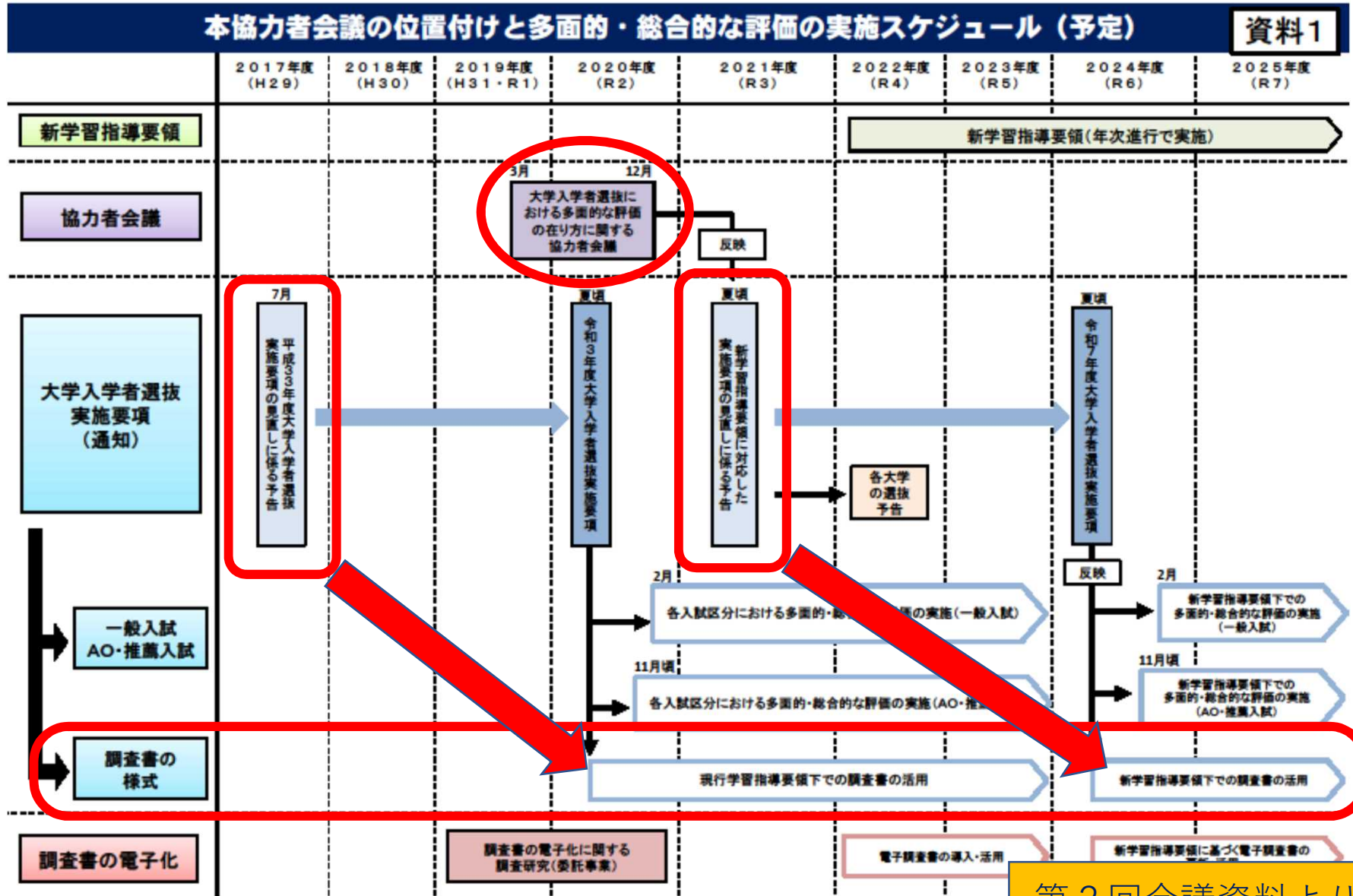


第2回会議資料より



第2回会議資料より





第2回会議資料より



令和3年度入試から調査書の様式が変わり(改善され)ます

- 大学入学者選抜において「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」を含む「学力の3要素」を多面的・総合的に評価するため、高等学校段階における多面的な評価への改善の取組を踏まえ、一人一人が積み上げてきた大学入学前の学習や多様な活動等に関する評価の充実を図る。
- あわせて、これらの評価がその後の大学教育に十分生かされるようにする必要がある。

改善を図る

- 調査書の見直し
- 推薦書の見直し
- 志願者本人の記載する資料等
- 調査書等の電子化

# 調査書の様式がどう変わる(改善される)のか

**改善**

新たな調査書における新旧対照表のイメージ

**旧**

別表1

改正案													現行の調査書(平成29年度大学入学者選抜実施要項)																	
(表)													(表)																	
1. 氏名			昭和 年 月 日 生			性別	現住 都道府県 市 区 町村 丁目 番 号			入学、編入学、転入学			1. 氏名			昭和 年 月 日 生			性別	現住 都道府県 市 区 町村 丁目 番 号			入学、編入学、転入学							
学校名	国立 公立 私立	高等学校 中等教育学校 特別支援学校 (分校)				昭和 年 月	(第 学年)			学校名	国立 公立 私立	高等学校 中等教育学校 特別支援学校 (分校)				昭和 年 月	(第 学年)			昭和 年 月	卒業見込									
全・定・通		普通・専門( )・総合				平成 年 月	卒業見込			全・定・通		普通・専門( )・総合				平成 年 月	卒業見込			全・定・通		普通・専門( )・総合				平成 年 月	卒業見込			
2. 各教科・科目等の学習の記録													2. 各教科・科目等の学習の記録																	
教科・科目		評定				修得単位の計	教科・科目		評定				修得単位の計	教科・科目		評定				修得単位の計	教科・科目		評定				修得単位の計			
教科	科目	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年		教科	科目	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年		教科	科目	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年		教科	科目	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年				
統合的な学習の時間													統合的な学習の時間																	
3. 各教科の学習成績の状況													3. 各教科の評定平均値																	
教科	国語	地理 歴史	公民	数学	理科	保健 体育	芸術	外国語	共・家庭	共・情報	全体の学習 成績の状況	教科	国語	地理 歴史	公民	数学	理科	保健 体育	芸術	外国語	共・家庭	共・情報	全体の評定 平均値							
4. 学習成績の概況													4. 学習成績の概況																	
段階	A	人	B	人	C	人	D	人	E	人	合計	(人)	段階	A	人	B	人	C	人	合計	(人)	段階	A	人	B	人	C	人	合計	(人)

第2回会議資料より



# 調査書の様式がどう変わる(改善される)のか

**改善**

**旧**

（裏）					（裏）																			
※	※	※	※	※	※	※	※	※	※	※	※	※	※	※	※	※	※	※	※	※	※	※		
5. 総合的な学習の時間の内容・評価	活動内容	指導要録に合わせて、5、8、9の項目の順番を入れ替え。										5. 出欠の記録												
	評価											区分 学年 1 2 3 4 区分 学年 1 2 3 4												
6. 特別活動の記録	第1学年	第2学年		第3学年		第4学年		第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		
	7. 指導上参考となる諸事項																							
	第1学年	(1) 学習における特徴等 (4) 取得資格、検定等 <small>(注) 専門学校や民間事業者等が実施する資格・検定の内容、取得スコア、取得時期等</small>	(2) 行動の特徴、特技等 (5) 表彰・顕彰等の記録 <small>(注) 各種大会やコンクール等の内容や時期、科学オリンピック等における成績、時期 国際バカロレアなど国際通用性のある大学入学資格試験における成績、時期等</small>	(3) 部活動、ボランティア活動、留学・海外経験等 (注) 具体的な取組内容、期間等	(6) その他 <small>(注) 生徒が自ら関わってきた諸活動など</small>	第2学年	(1) 学習における特徴等 <small>(注) 「調査書記入上の注意事項等について」において、共通の留意事項として記載。</small>	(2) 行動の特徴、特技等	(3) 部活動、ボランティア活動、留学・海外経験等	(6) その他	第3学年	(1) 学習における特徴等	(2) 行動の特徴、特技等	(3) 部活動、ボランティア活動、留学・海外経験等	(6) その他	第4学年	(1) 学習における特徴等	(2) 行動の特徴、特技等	(3) 部活動、ボランティア活動、留学・海外経験等	(6) その他	第1学年	(1) 学習における特徴等 (2) 行動の特徴、特技等	(3) 部活動、ボランティア活動等 (4) 取得資格、検定等	(5) その他
	この調査書の記載事項に誤りがないことを証明する。 平成 年 月 日 校長 印 記載責任者職氏名 印																							

# 調査書の様式がどう変わる(改善される)のか

**改善**

・調査書の様式について、裏表の両面1枚とされているが、この制限を撤廃し、弾力的に記載できるようにする。

**旧**

・大学が指定する特定の分野（例：保健体育、芸術、家庭、情報等）において、特に優れた学習成果を上げたことを記載させることができる。

9. 出欠の記載

区分	学年				区分	学年			
	1	2	3	4		1	2	3	4
授業日数					欠席日数				
出席停止・忌引き等の日数					出席日数				
留学中の授業日数					備考				
出席しなければならない日数									

この調査書の記載事項に誤りがないことを証明する。  
平成 年 月 日

学校名  
所在地  
校長名 記載責任者職氏名

調査書の様式について、(現在は)裏表の両面1枚となっているが、この制限を撤廃し、弾力的に記載できるようにする。

の部分

## 【指導上参考となる諸事項】

生徒の特長や個性、多様な学習や活動の履歴についてより適切に評価することができるよう、現行の調査書の「指導上参考となる諸事項」の欄を拡充し、以下の①～⑥の項目ごとに記載する欄を分割して、より多様で具体的な内容が記載されるようにする。

- ①各教科・科目及び総合的な学習の時間の学習における特徴等
- ②行動の特徴、特技等
- ③部活動、ボランティア活動、留学・海外経験等
- ④取得資格・検定等
- ⑤表彰・顕彰等の記録
- ⑥その他

の部分

大学が指定する特定の分野（例：保健体育、芸術、家庭、情報等）において、特に優れた学習成果を上げたことを記載させることができる。



## の部分

	(1) 学習における特徴等 (2) 行動の特徴、特技等	(3) 部活動、ボランティア活動等 (4) 取得資格、検定等	(5) その他
第1学年			



第1学年	(1) <u>学習における特徴等</u>	(2) <u>行動の特徴、特技等</u>	(3) <u>部活動、ボランティア活動、留学・海外経験等</u> (注) 具体的な取組内容、期間等
	(4) <u>取得資格、検定等</u> (注) 専門高校の校長会や民間事業者等が実施する資格・検定の内容、取得スコア・取得時期等	(5) <u>表彰・顕彰等の記録</u> (注) 各種大会やコンクール等の内容や時期、科学オリンピック等における成績、時期 国際バカロレアなど国際通用性のある大学入学資格試験における成績・時期等	(6) <u>その他</u> (注) 生徒が自ら関わってきた諸活動など

1. 生徒一人一人の特徴を学業だけでなく、多面的に記入できることは良いことという意識
2. 調査書の記載内容から多面的に評価する手法について
3. 現行の指導要録の記載内容の転記だけでは不十分である場合の対応
4. 記入欄の弾力化により、生徒の資格や表彰歴の全てを記載できるようになるのは良いこと
5. 生徒の学内外での活動歴、表彰歴の全てを、活動期間等を含めて細かく把握しなければならないことへの不安
6. 公文書として調査書を作成する上での課題
7. 調査書は担任が作成するが、記載事項が増えることで調査書作成にかける労力が増えることへの懸念
8. その他



の部分

9.備考	
------	--



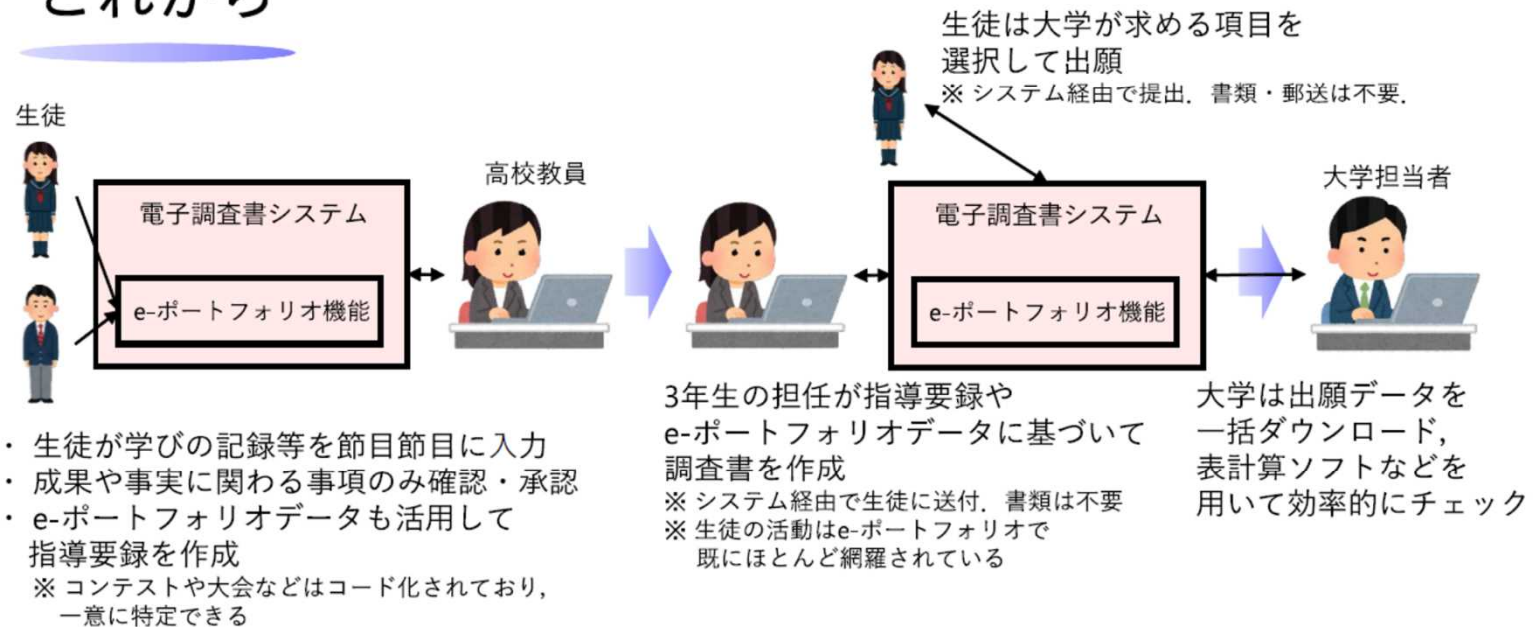
9. 備考	<p>・大学が指定する特定の分野（例：保健体育、芸術、家庭、情報等）において、特に優れた学習成果を上げたことを記載させることができる。</p>
----------	---



1. 同じ系統の学部学科への出願でも、大学ごとに選抜の種別（総合型選抜・学校推薦型選抜・一般選抜）で異なる内容を求められることで、記載内容をそれぞれに対応させることへの負担感
2. 出願大学の決定時期を早めないで記載が間に合わないという不安
3. 募集要項を読み込まないと記載できないという不安感・負担感
4. 過年度生についての対応への危惧
5. 記述量が弾力化されることで、記載者としては「何とか合格してほしい」との気持ちから多くのことを記載する傾向になることへの懸念
6. その他

## 電子調査書システムがもたらす効果

これから



高大接続改革における多面的評価のための電子調査書システム

Kwansei Gakuin University Hiroyoshi Miwa

28 / 32

第2回会議資料より

1. e-ポートフォリオは、本来、学習プロセスを記録に残すことで生徒の成長を促すためのもの
2. e-ポートフォリオを、調査書作成時の参考データとして教員が活用したり、生徒が大学に提出するデータ作成時に活用することを前提に、どのようなデータを、どのような形で蓄積しておくのかという検討が必要
3. e-ポートフォリオ作成状況の確認や、生徒へ指導することなどの業務が増える反面、e-ポートフォリオが入試でどのように利用されるのか、あるいは利用されないのか不透明
4. 公文書としての電子調査書発行手続きの整備が必要
5. 現行と異なり、電子化に伴って、調査書データを高校が大学に送信することになった場合には負担が増える
6. その他

1. 「主体性等の評価」の理解に個人差があるのではないかと。
  - 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度 = 主体性等
  - 「知識・技能」 + 「思考力・判断力・表現力」 + 「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」 = 主体性等
2. 「主体性等」には、客観的に評価が可能な能力と、「態度」「意欲」といった資質が混在しており、資質は客観的な評価が難しいので、どうしても主観的になってしまうのではないかと。
3. 予告の中に「学校長からの推薦書の中で、本人の学習歴や活動歴を踏まえた「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」に関する評価を記載すること」とあるが、主体性等の「多様な人々と協働して学ぶ態度」を、何を根拠に評価すれば良いのか迷う。

4. 一般選抜において、調査書の記述から、大学がどのようにして「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」を評価するのか。
5. 自主性等の評価について、入試説明会等で「一般選抜で多面的に評価するのはボーダー付近の受験生」との説明を聞く。一般選抜は受験生が多いという現実を考えるとその理屈も理解できるが、もしそうであるなら、「各大学の入学者選抜において、卒業認定・学位授与の方針、教育課程編成・実施の方針を踏まえた入学者受入れの方針に基づき、「学力の3要素」・・・を多面的・総合的に評価するものへと改善する」という今回の改善の趣旨を考え、総合型選抜、学校推薦型選抜の募集人員をもっと増やすことが適当なのではないか。
6. その他

小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について（通知）

30文科初第1845号／平成31年3月29日

## 3. 指導要録の主な改善点について

- (2) 高等学校・・・における「各教科・科目等の学習の記録」については、観点別学習状況の評価を充実する観点から、各教科・科目の観点別学習状況を記載することとしたこと。
- (3) 高等学校・・・における「特別活動の記録」については、教師の勤務負担軽減を図り、観点別学習状況の評価を充実する観点から、文章記述を改め、各学校が設定した観点を記入した上で、各活動・学校行事ごとに、評価の観点に照らして十分満足できる活動の状況にあると判断される場合に、○印を記入することとしたこと。
- (5) 教師の勤務負担軽減の観点から、・・・その記述の簡素化を図ることとしたこと。





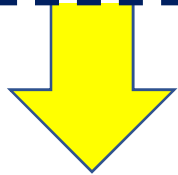
様式2裏面

総合的な探究の時間の記録		学年			
学習活動	形式	1	2	3	4
内容	観点	1	2	3	4
ホームルーム活動					
校外活動					
その他					
総合学習及び授業上参考となる諸事項					
第一学年					
第二学年					
第三学年					
第四学年					

「総合的な探究の時間の記録」に記載されている内容



「総合所見及び指導上参考となる諸事項」に記載されている内容



調査書、推薦書の記載に十分な情報か？

## 「学力の3要素」を多面的・総合的に評価する

知識・技能

思考力・判断力・表現力

主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

## 入学者選抜で多面的に評価するための情報が必要

調査書

推薦書

受験者からの提出資料

大学が選抜の過程で収集した資料 等

新生徒指導要録  
案では記述の簡  
略化が予定され  
ている

調査書の簡素化？

## 評価がその後の大学教育に十分生かされる

調査書、推薦書などのペーパーレス化を  
はじめとする入学者選抜事務全体の電  
子システム化が必要

